

令和7年度 第一回 学校運営協議会 議事録

司会：副校長、鈴木会長 記録：教務課長

日 時 令和7年5月14日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで

場 所 伊豆田方分校 パソコン室 （田方農業高校北館2階）
田方郡函南町塚本961

内 容

令和7年度学校運営協議会年間活動予定

1 第1回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和7年5月14日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで
(2) 内 容 学校経営目標の確認と協議「学校運営協議会の具体的支援について」

2 第2回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和7年9月19日（金） 午前9時30分から午前11時30分まで
(2) 内 容 インクルーシブな学校運営モデル事業の中間報告と今後の方向性について

3 第3回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和7年10月18日（土）～11月8日（土）
午前9時30分から午前11時30分まで
(2) 内 容 期間中の授業（作業学習等）、田農との交流及び共同学習（共同授業、交流授業、オープンスクールと田農祭の行事）の参観

4 第4回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和7年2月3日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで
(2) 内 容 学校経営評価と協議「次年度における学校運営協議会の具体的支援（仮）」

委員紹介

【学校運営協議会委員】

氏 名	所 属 等
鈴木 隆臣	株式会社 駿東ドリームビレッジ 取締役
内山 智尋	静岡大学 地域創造学環 講師 社会福祉学 博士
杉山 浩巳	函南町塚本区 区長
田中 三智子	加和太建設株式会社 伊豆ゲートウェイ函南 駅長
渡邊 尚子	相談支援事業所リベルテ 相談支援専門員
岩田 聡志	就労継続支援B型事業所 志～cocoro～ 管理者
望月 智恵	沼津特別支援学校 伊豆田方分校 PTA 会長

【学校教職員】

氏名	役職など	氏名	役職など
青木 暁乃	校長	高木 亮	副校長
岡山 昌義	部主事	柚岡 由紀	副主事 教務課長

本年度の学校経営計画概要等説明 ※別紙参照

〔 副校長 〕 グランドデザインを基に主旨を説明

〔 岩田様 〕 進路先と学校で学習している作業がリンクしていない。現在、本校の卒業生で、木工の学習をしてきたにも関わらず、進路先にその学習をしてきたことが結びついていない。リンクさせることで、より自信を持って活動することができ、学校目標にもある輝きにつながるのでは？

〔 部主事 〕 本校は3年間で2種類、もしくは3種類の作業を学習する。清掃以外はなかなかリンクさせることが難しい。そういった中で、どの班でも共通する働く力をつけることと、その作業班でしか得られないものを味わう、卒業後の意欲や糧につながげるというおさえではあるが、今伺った話を聞いて学校生活での経験をいかせるような進路選択を考えていきたい。

〔 校長 〕 作業学習をする方法を通して、総合的に働く力を身につける学習。
「私は清掃班で、最後まで隅々清掃することができる力が身についた。だから、そこで身についた最後までやり抜く力を職場でも活かしていきたい」等、それを本人や教員が説明できる力が大切。活動そのものの直結というところをもう少し考えていく必要があるが、そういった力を身につけることもねらいとしている。

〔 岩田様 〕 学ぶ環境作りが大切。障害のある方には、直結するものがよい。環境を作ってあげることが進路。今のもの（状況）を見てもらう。
実習の事前打ち合わせもシナリオを読むだけの打ち合わせではなく、今何をしているのか、どのような思いがあるのか、コミュニケーションを取っていくことを大切にしたい。人を見ることを大切にしていきたい。

部主事→キャリアパスポートを事前学習、事前打ち合わせ等で、活用することも検討していく。

学校経営目標の承認 ※別紙参照

〔副校長〕 学校経営計画書を基に主旨を説明

〔委 員〕 学校経営計画書の内容を全会一致で承認

授業参観

※副校長、部主事の案内で、委員の方々に授業、校内の学習環境を参観していただいた。

協議

- [鈴木様] テーマ①学校の魅力をどう発信していくか
テーマ②委員として学校をどのように応援し、関わっていくか
→誰をターゲットにするか（ターゲット層）
→発信の方法
- [杉山様] ・学校だよりを、区の方で回覧し、発信してはどうか。（公民館に置く等）
・高齢者はPCやスマホ等で閲覧が難しい→紙媒体で回覧
・田農は認知されているが、伊豆田方分校は認知されているのか。
・地域に知ってもらうという観点でも回覧は有効。
・函南の小中学校ではやっている。
- [副校長] HP公開はしているが、学校だよりは出していないので、検討していく。
-
- [田中様] ・学校から積極的にメディアに発信してはどうか。（新聞社等）
・学校側からの方が、メディアに取り上げられやすい。
・ゲートウェイは県外の方が多い。地元が発信していくには、地元の新聞社をうまく使うと良い。
・売り場の発信の仕方の工夫
※商品を販売する際にも、どういう取り組みでどのように作ったのかのポップを作成して、ストーリー性を持たせると商品に負荷価値がつく。
-
- [渡邊様] ・小学校高学年ぐらいの保護者から進路についての相談
・田方分校は人気と聞いているが実際は何をしている学校なのかという質問を受けるので、学校だよりがあると説明ができるので、事業所等に配布してみてもどうか。
・東部特支は季節ごとに年に2～3回程度もらっている
・HPは内容を分かりやすくして、進路のことや就労先についても載せてもらいたい。更新が遅い。
- [鈴木様] どのくらいの頻度、回数で相談しているか。
- [渡辺様] 半年に1回。中には小1から進路についての相談がある保護者もいる。
- [鈴木様] 今はICTが進んでいる。リーフレットやパンフレットを生徒目線で作成。
- [校長] 愛鷹分校は、自校の好きなところ等を生徒自身が作成して発信
- [岡山] 数年前、愛鷹はHP係があり、生徒が原稿を作って教員が配信している。
-
- [鈴木様] 保護者目線で感じる事や考えること、何かありますか？
- [望月様] ・私の時代には、保護者同士のつながりがよくあった。今は、働いている保護者が多いから、集まりが少ない。交流を持ちたがらない。情報をいっぱい持っているから、逆に交流する場に集まらない。
・放デイや児発にも情報が欲しい。
・ゲートウェイは地元の人はいかないので、地元の人が良くいくところでも、作業製品の販売をしてみてもどうか。また、個人の発注を受け付けているか。
- [岡山] ・製作数に限りがあるので、個人向けの発注はしていないが、学校だより、販

売詳細を掲載し、宣伝するということも検討していきたい

[望月様]・障害者週間で役場に絵の展示等して頂くが、一番奥の方に展示されている。
もっと入り口の方に展示してほしい。

[渡辺様]・就労B毎月1回販売会。毎回でなくても年1回。

[望月様]・福祉課のところに福祉関係の事業所さんとかも入っているが、そこに少し邪魔させていただくことも可能かなと。

[校長]・杉山さん福祉課の看板を木工班に作らせてもらえないか。

[杉山]・私の方で話をつなげておきます。学校の方から、一度福祉課の方へ話をしても
らいたい。今日午後福祉課へ行って話をします。
→双方に準備が整い次第。

[内山様]・昨年、東部特支の子の絵画をジオパークのジオリアミュージアムに展示した。
・展示できる物があると良い。学校の生徒も見に来る。
・魅力の発信の方法もそうだが、魅力をどう作るか。伊豆田方分校に来ると、こ
んないいことができる等…
・ジオパークの学習。伊豆半島の成り立ちや生活等を学べる機会になる。研究員
を招いて生物や石の話を学ぶこともできる。
・探究学習の発信。昨年はパネル展示、東部特支はビデオ、今年度は伊豆田方分
校さんに発表をして頂きたい。(現2年生)
・伊豆総合会館ジオリアミュージアムで実施。
・発表の内容は、部活のことなど、何でもよい。発表メインというよりも、学生
同士の交流がメイン。

[校長] 防災にからめて学習をしていくと良い。田方の防災＝「たが防」

[岩田様] ①どうやれば、生徒数が増えるのか。

- ・分校の印象はレベルが高い、生徒が何でも自分でできる、軽度
- ・教員の面倒見がよくない(自分たちでできるから)
- ・本校や伊豆特は先生がたくさんいて、目的の違いと思われがち。
- ・伊豆特との違いは？学区？能力？

→相談員を集めて、学校の違いや基準等を伝える場面の設定してみては？

②中学校の支援級の学校の先生に、どのような発信をしているのか。

→放デイが情報を持っていると強い。

→連携を強化して正しい情報を正しい場所で伝える必要がある。

→分校に放デイの方が来ないから、本校で分校のアピールを。